

最近のアメリカ建築の動向

海外出張報告 2

中田善久



ニュー・ミュージアム (アルミの外壁)



ハウアウト・ビル (鑄鉄の柱)

2010年8月下旬から約3週間でアメリカを視察してきました。一昨年、山中先生と海外研修旅行で学生とヨーロッパに行き、有名建築に建築材料がどのように使われているかを見てきました。そこで、今回の視察は、アメリカの有名建築に建築材料がどのような使われ方をしているかと、次回のアメリカでの海外研修旅行の検討が大きな目的です。アメリカといっても大変広い国なので行きたい都市は多数ありましたが、ニューヨーク、ワシントン、ボストン、フィラデルフィア、ピッツバーグ、ラスベガス、サンフランシスコに滞在しました。グッゲンハイム美術館や落水荘はもとより、各都市でたくさんの建築を視察してきました。今回の視察は、海外研修旅行と違ってほとんどの建築を地下鉄やバスを使って自分で動かないと見られませんでした。苦勞して行った分も加えてその建築のすばらしさに感動を覚えました。帰国すると、あるくくりで見ていたのかもしれない、そのくくりで紹介します。

(アルミニウム) ニュー・ミュージアム (NY) のエキスパンドメタルメッシュが印象的でした。その多彩なメッシュを外壁に用いることでより、建築の良さを引き立てていました。その他にも黒いアルミの外壁のエイチエスピーシー (NY) は、イサム・ノグチ作赤い彫刻「キューブ」と対照的で印象に残りました。

(ステンレス) ステンレスも主に外壁ですが、クーパー・スクエア (NY) の多孔ステンレススチールパネル、ニューヨーク・タイムズ・ビル (NY) の横置きのコイル、そして、レイ&マリア・ステイタ・センター (BOS) のステンレス板が印象的でした。

(鉄) 鉄は、構造的にいろいろな建築に使われていますが、ハウアウト・ビル (NY) の古代ローマのオーダー柱をまねた鑄鉄はとくに印象に残りました。その他に、I型のブロンズカーテンウォール押し出し材を使ったシーグラム・ビル (NY) も下から見上げるときれいな構造になっていました。

(銅) 銅は、自由の女神をはじめ、屋根に使われていること自体は珍しくありませんが、MIT クレスゲ・オーディトリウム (BOS) のドーム模様に葺いているのは大変に新鮮な感覚でした。また、2005年に竣工したデ・ヤング美術館 (SFC) の外壁の銅板です。これは、クラディング技法により穴をあけたり加工したりして、さらに「レインスクリーン」効果をもっているため、赤褐色のまま建物自体のすばらしさを助長しています。

(煉瓦) 煉瓦造りや石造りの建築は多数ありますが、煉瓦形状を模様として表現しているサークル・ギャラリー (SFC) も珍しかったです。この建築の前でデッサンを楽しむ建築学生との会話も思い出のひとつです。

(コンクリート) 専門的にはボストンで見たコンクリートの凍害は教科書通りのものでしたが、それよりもセント・メリー大聖堂 (SFC) の三角形のコンクリートパネルとスリット部分のステンドグラスは好対照で、美しい一言でした。

今回の視察で得た写真 (約4,200枚) は、「建築材料Ⅰ」と「建築材料Ⅱ」の授業で、材料の機能だけでなく、使われ方も説明したいと思っています。また、アメリカの海外研修旅行の可能性を見いだせた海外出張となりました。
(なかたよしひさ・准教授)



MIT クレスゲ・オーディトリウム (銅の屋根)



デ・ヤング美術館 (銅の外壁)



サークル・ギャラリー (煉瓦)



セント・メリー大聖堂 (PCa板)